

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093000091		
法人名	医療法人 徳洲会		
事業所名	グループホーム あんしん		
所在地	〒818-0061 福岡県筑紫野市紫2丁目10番23号	092-918-6767	
自己評価作成日	平成26年02月09日	評価結果確定日	平成26年03月26日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	093-582-0294	
訪問調査日	平成26年03月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街の一角にあり、民家を改修して事業を行っている。平成14年3月に筑紫野市内では一番最初に指定を受けたと聞いています。民家の庭先には、季節ごとの花が咲き、利用定員6名が生活する建物の中は、ゆっくりと時間が流れています。日中、今で過ごす利用者の方や自室で過ごす方などいますが、木造建築の為、生活音が聞こえ、ひとりで過ごして居ても、誰かがすぐ近くに居るような気分になり、利用者の方のなじみの関係がより深く感じられる空間になっていると思います。職員も、決して慌てることなく、利用者の方と身近な関係が保てれ、利用者個々の状態把握に努め、その方に寄り添うように、日々の業務を行うことが出来ています。訪れた方から、「本当に家庭的な雰囲気が保たれている。」と、聞きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「あんしん」は、筑紫野市の住宅街の中で、民家改造の定員6名のグループホームである。ホーム横を流れる川には、大きなコイや亀が住み着き、利用者と職員は、季節毎に変わる、川の様子を眺めながら、四季の変化を五感で感じている。職員は、利用者一人ひとりが、その人らしく暮らせる支援に取り組み、入居年数の長い利用者が多く、介護度も変化が多く、家族の喜びと、安心に繋げている。調理上手な職員が作る料理は、絶品で、利用者と職員が、同じ料理を食べて完食し、元気な体をつくり、母体医療法人が、築いた24時間の医療連携体制と合わせ、早期発見、早期治療に繋がり、利用者の健康管理は万全である。また、地域との関係は、筑紫野市で最初に開設したグループホームであり、地域福祉の拠点として、ホームが新築移転後も活かされる体制を整えている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲示し、常に念頭に置いて職員は、日々の業務にあたっている。管理者、職員は、利用者個々の生活が安定して送れるように行っている。	ホームが、目指す介護サービスの提供を取り組むための、運営理念を掲示し、職員一人ひとりが理解し、常に意識しながら、利用者の尊厳を守り、生まれ育った馴染みの地域で、安心して、生きがいを持って生活が送れるように取り組んでいる。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	事業所は、地域の清掃活動や町内会の会議等への参加を行い、地域の方々との交流に努めている。また、地域の方々から行事等の参加の誘いを受け、利用者・職員と一緒に行事等へ参加を行っている。	自治会に加入し、利用者と職員は、地域の一員として、地域の行事や清掃活動、町内の会議に参加し、地域住民との交流を図り、親しくなった地域の方から、採れたての新鮮な野菜をいただく等、交流の輪が広がっている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主体の勉強会や会合は、施設内で行うことが出来にくい為、行っていないが、公民館、民生委員、地域包括支援センターなどをとおして、介護の相談を行っている。	
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に一度開催をし、事業所の現状報告、問題点等を話し合い、出席者から意見を聞き問題解決が図れるように行っている。会議の内容については、議事録として職員全員に周知を図り、今後のサービス提供に役立っている。	会議は、2ヶ月毎に定期的に開催し、平日の14時開催のため、家族の参加はないが、ホームの運営や取り組み、課題等を報告し、参加委員からは、質問や要望、情報提供等が出され、双方向的な会議になっている。今回は新築移転のホームで、実施することを決めている。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の問題や介護保険法の解釈、日々の業務の問題点等を市の担当者には相談し、事業所内を出来るだけ把握して頂くように努めるとともに、また、事業所は、当市と連携を図ることで、早期の問題解決や事業運営の明確化に努めている。	管理者は、ホームの運営状況や問題点、疑問点等を行政窓口相談し、課題解決に向けた協力体制を確立している。また、運営推進会議に、行政職員や地域包括支援センター職員が出席し、ホームの実情を理解してもらい、アドバイスや情報交換し、行政との協力体制が整っている。
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所および全職員は、介護保険法及び関係法令の理解に努め、利用者個々の状態把握に努め、利用者の身体に危険が及ぶ場合を除き、身体拘束をしない支援を行っている。	外部研修会に管理者が参加し、勉強会の中で、利用者の人権を尊重する取り組みについて、伝達研修し、職員全員が理解し、言葉や薬も含めた身体拘束が、利用者にも与える影響を理解し、具体的な禁止行為について話し合い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及び職員は、研修等で介護保険法や関連法を学ぶ機会を持ち、法令順守を行っている。また、日々の業務の当たっては細心の注意をもって行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるような支援している	管理者及び職員は、研修等で介護保険法や関連法を学ぶ機会を持ち、利用者個々への対応を検討している。現在、利用者が自立支援事業を利用している為、事業所および職員は、自立支援事業担当者との関わりがあり、情報交換等を行っている。	現在、制度利用者がおられるので、職員は、制度の内容を理解し、資料やパンフレットを用意して、契約時に説明をしている。また、利用者や家族が、制度を必要とする時には、内容の説明や、関係窓口の紹介が出来る体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が窓口となり、利用者や家族等に可能な限り、面談による説明を行い、必要な場合は、他職員や法人職員等も同席を行っている。また、書面による確認等も適宜行い、利用者や家族の不安の解消、理解・納得を得るようにしている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人が、各年度毎に「顧客様アンケート」を実施し、利用者およびその家族等から意見や要望等が聞かれるように行い、その結果通知を事業所は受けている。	面会や行事参加の時に、職員が家族と話し合い、利用者の希望や生活状況、健康状態等を報告し、家族の意見や要望等を聴きとっている。また、毎年、家族アンケートを実施し、ホームの業務改善や、介護計画作成に反映させている。	家族との信頼関係が築かれているので、家族が安心して、面会が減少傾向にあるので、家族からの協力を得るために、家族の悩みや心配事の相談に乗り、ホーム便りを復活し、家族が楽しめる内容にしていくことを期待したい。
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現状、各職員から定期的に意見交換をする機会には、設けていないが、管理者と各職員が意見交換を行い、事業運営に関わっている。	定期的な職員会議は開催していないが、職員の気づきや心配事は、朝の申し送りや、業務中に話し合い、職員間で連携を取りながら、介護の実践に取り組んでいる。また、管理者が、職員と個別に話し合う機会を設け、ホーム運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、事業所の運営状況や各職員の勤務状態等の把握に努め、事業所の現状改善や今後の事業運営・展開等を図っている。各職員には、やりがいや向上心が持てるような職場作りを勤めている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人および事業所は、介護保険法や関係法令を遵守し、職員の募集・採用に関しては、なんら制限を設けてはいない。事業所は、勤務する職員ひとりひとりの能力が發揮できるような職場作りを行っている。	職員の募集は人柄や、介護に対する考え方を重視し、年齢や性別、資格等の制限はなく採用している。職員の特長(料理、園芸、縫い物、レクリエーション)を活かした勤務体制や、役割分担で、生き生きと仕事ができるように支援している。また、職員を外部研修に派遣し、介護技術の向上と意識の高揚を図り、職員が、生き生きと働ける環境を整えている。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	事業所内では、管理者が各職員の接遇や業務中の対応について注意を行っている。また、各職員も、お互いの業務等を確認しながら業務に携わっている。事業所は、各職員へ研修参加を勧め、人権教育や啓発活動に力を注いでいる。	管理者は毎年、外部の人権研修会に参加し、勉強会の中で、利用者の人権を尊重するための、介護のあり方を職員に説明し、利用者が安心して暮らせる環境を整えている。また、運営理念に、利用者一人ひとりを尊敬すると明示し、職員は常に理念を意識しながら、利用者の尊厳を守る介護の実践に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員採用時に研修期間を定め、その職員が能力を発揮できるように行っている。法人、事業所は、勉強会や各種研修等への参加を各職員に呼び掛け、スキルアップができるように行っている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りまでは行かないが、事業所は、市内の同業者の運営推進会議にお互いの管理者が参加できるようにし、意見交換や交流の機会を作っている。また、各職員は、施設見学等を実施し、職員間の交流の機会を作っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全職員は、サービス提供前に利用者やその家族等から情報収集を行い、その情報を把握し利用者と接するように心がけている。利用者の持つ困っていることや不安なこと、要望等をひとつひとつ整理し、早期に解決し利用者の安心が図れ、職員との信頼関係が構築されるように行っている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス提供前に家族がもつ困っていることや不安なこと、要望等を整理し、解決ができるように全職員で取り組んでいる。また、家族からのお話は、サービス提供前だけでなく、その後も適宜行うようにしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者および介護支援専門員が入居の窓口となって事業所の説明等を行っている。入居希望者の本人およびその家族等に対して、他の介護サービスや関係法令等の説明を行い、必要あれば、包括支援センター、当市役所、医療機関等への紹介、情報提供を行っている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全職員は、業務の始業と終業の際に利用者全員に挨拶をし、利用者と一緒に過ごす時間をお互いに確認している。利用者からは、ねぎらいの言葉があり、また、励ましの言葉があり、お互いが、事業所で時間を過ごす良い関係であると思われる。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所は、家族会や交流会等は行っていないが、管理者および職員は、サービス提供前から家族の置かれている立場を理解し、サービス提供が行われることで、本人と家族の関係が希薄にならないように手紙等で近況報告を行い、面会時等には、家族の相談等にも関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	サービス提供前に、できるだけ馴染みの方の面会をお願いし、また、個人の私物等に関しては、事業所の空間がかぎられているが、出来るだけ使いなれた物を持参して頂き、利用者個々の生活空間になるように行っている。また、ご本人の希望があれば、思い出の地を時々尋ねられるようにしている。	利用者が長年築いてきた、人間関係や地域社会との付き合いを、職員は把握し、友人や、知人、近所の方などが面会に訪れたら、ゆっくり話せる場所や、お茶等を提供し、いつでも来ていただけるように支援している。また、行きつけの店で買い物を楽しんだり、好物を買って帰る等、馴染みの関係継続の支援に取り組んでいる。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一日を通じて、利用者は、個々の自室を自由に入りができ、居間や食堂等で過ごす事も出来ている。利用者個々が、居間や食堂で、テレビを見て談話を行う場面などみられている。また、天気の良い日は、玄関前で、利用者同士で、玄関前で日向ぼっこを行う場面などみられている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所は、サービス提供が終了しても、その家族等の要望があれば、必要に応じて相談援助を行い、問題解決ができるよう支援している。		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事業所は、利用前の情報を元に利用者ひとりひとりの個別サービスに心がけ行っている。また、利用開始後は、利用者個々の意向を確認し、できるだけ個別サービスの提供ができるように心がけている。	契約時に利用者や家族から、利用者の履歴や生活環境、希望、人間関係等を聴き取り、アセスメントに記録し、利用者との会話に活用しながら、利用者の思いや意向を聴き取っている。意志の疎通が困難な利用者には、アセスメントを読み返し、利用者に寄り添い、小さなサインや反応も見逃さずに、思いの把握に努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事業所は、利用前の本人の状況を本人および家族等また、その関係者から情報の提供を受けてサービス提供を行っている。また、サービス開始後も、サービス前の情報の確認を行い、ご本人により良いサービスが提供できるように行っている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、一日を通じて、利用者の健康状態や心身の状況、言動・行動等に注意をしている。食事・水分摂取量や排泄の回数等を記録し、利用者個々の状態把握に努めている。各職員が知り得た情報は、記録、申し送り等を行い、情報の共有を行い、利用者個々の現状把握に努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の意向や家族等の情報を元に計画作成にあたり、利用者が抱える問題の解決が図れるよう取り組んでいるが、全ての利用者が、現状に即した介護計画には、なっていない。	利用者や家族の意見や要望を聴き取り、担当者会議を開き、関係者で話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。また、利用者の重度化や、体調変化に合わせて、家族や主治医と話し合い、介護計画の見直しを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき等は、利用者毎に個別に記録を行い、職員間で情報の共有やケアの工夫に活かしていると考えられるが、介護計画の見直し等には、結びついていない部分もある。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所は、介護保険施設としての役割を果たすとともに、利用者や家族等へ情報提供の場としての役割を果たしている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所および職員は、地域資源をきちんと把握し、利用者や家族等の要望があれば、支援できるようにしている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所は、利用者、ご本人や家族等の意向を確認し、出来るだけ従来のかかりつけ医の受診を勧め、その医療機関との連携を図れるように行っている。事業所の利用にあたり、ご本人や家族等にかかりつけ医の変更や新しい病院受診等は、必要な場合を除き、行っていない。	利用者や家族の希望を優先し、馴染みのかかりつけ医の受診をしている。管理者は、かかりつけ医と常に、利用者の医療情報を共有し、信頼関係を築き、介護職員の健康チェックと看護師との連携で、安心して任せられる医療体制が整っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、利用者の日々の生活スタイルや心身の状況、健康状態等に細心の注意をし、把握に努めている。介護職員が、業務中に知り得た気づきや情報は、看護職員と相談、情報を共有し、利用者の体調の変化等あれば受診等を実施するように行っている。また、管理者への報告を行い、医療機関との連携を行っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は、管理者が対応し、本人や家族等の入院に対する不安や精神的負担が軽減できるように努めている。また、家族と病院との連絡調整を行い、入院や退院の家族負担の軽減に努めている。入院中の利用者には、職員が面会を行い、看護師等と情報交換を行うとともに、利用者の精神的安定を図り、また、家族等の相談援助を行っている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所は、利用開始時に本人や家族と面談を行い、事業所内での職員の配置や関係医療機関、緊急時の対応等について十分な説明を行い、施設ができることやできないことを理解して頂いている。また、必要な時は、かかりつけ医や医療機関等の関係者とも情報の交換を行い、本人や家族の了解を得るようにしている。	ターミナルケアについて、契約時に、利用者や家族に説明し、ホームで出来る支援について理解を得ている。利用者の重度化が進み、家族と密に連絡を取りながら、主治医も交えて話し合い、今後の介護方針を確認し合い、関係者で共有し、利用者の重度化に向けた支援体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時の対応は、マニュアルを作成し、全職員が常に確認し、対応できるようにしている。急変や事故発生時に備えて、職員は、物品の保管場所等の確認、初期対応は常に心がけている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えて、利用者、全職員、法人職員などと訓練を行っている。また、災害時のマニュアルを全職員で確認を行っている。地域の方々の協力体制もできている。	年2回昼間の避難訓練を実施し、通報装置、消火器の使用方法和避難経路、非常口、避難場所等を確認し、利用者が安全に避難出来るように努力している。また、初期消火の訓練に力を注ぎ、いざという時に備えている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員は、運営理念にもあるように利用者ひとりひとりを尊敬し、日々の業務を行っている。職員は、利用者ひとりひとりにできるだけ統一した言葉や態度で接するよう心がけ、その方の持つ個性を大事にできるように心がけている。また、職員相互で、日々の業務の反省や接遇に注意をしている。	経験豊富な人生の先輩として、職員は利用者を尊敬し、利用者のプライドや羞恥心に、細心の注意を払い、優しい声かけや対応で、利用者が安心して暮らせる支援に取り組んでいる。また、利用者の個人情報の記録は、鍵のかかる書庫で保管し、職員の守秘義務については、管理者が、常に職員に説明し周知されている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	管理者および職員は、利用者個々と毎日会話をし、季節の移り変わりや献立を話したり、外出先を予定したりして、利用者個々の思いや希望が聞けるようにしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所には、一日の業務の流れがあり、職員はその業務の流れを目安に行っているが、職員は、一つ一つの業務を行い際は、各利用者に事前に説明を行い、利用者が了解し同意を得て、その人のペースで行っている。職員から、無理をすることのないように心がけている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の選択や整容、化粧などは、利用者個々がご自分でやっている。職員は、できるだけ介助はせず、ご自分で行った後の、足りない部分を補うようにしている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に料理をする場面は、少なくなっているが、当日の献立を決めたり、調理の方法を職員が相談する場面はみられている。毎日ではないが、食事の後片付けは、利用者と職員と一緒に行うようにしている。	利用者の楽しい食事は、利用者の残存能力に合わせ、下拵えや、片付け等手伝ってもらい、食事の献立を決めたり、味見をしてもらおう等、作る喜びと、食べる楽しみを味わいながら、楽しい食事の時間である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、利用開始前の情報や本人・家族等の面談から食事摂取量や嗜好を確認している。利用開始からは、一定期間本人と食事量や水分摂取量の確認を行い、必要な場合は、医師や看護師に相談を行っている。また、職員は、利用者毎に食事摂取量や水分摂取量の記録を行い、健康管理に注意をしている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、職員が声かけを行い、利用者ができる部分まで行い、補助的に職員が行うようにしている。また、利用者自らが食後の口腔ケアを実施する場合があります。職員は、痛みの有無等を定期的にご本人に確認している。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は、利用開始前の情報を把握し、本人や家族等とも話、利用者個々の排泄の習慣を保持するようにし、利用者個々に応じた声かけやトイレでの排泄を心がけ、安易なおむつ使用はできるだけ行わない様になっている。利用者個々の排泄は、回数や量、色や状態などを記録し健康管理を行っている。	職員は、利用者がトイレで排泄することの意義を理解し、利用者の排泄チェック表や、生活習慣を把握し、早めの声かけやトイレ誘導で、失敗の少ない、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間もトイレ誘導し、オムツやリハビリパンツの、使用量の軽減に繋げている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、研修や勉強会等で、便秘の原因や及ぼす影響を理解して、毎日の献立の工夫や水分摂取量等に注意をしている。個々の利用者の予防は、個々の利用者の記録を確認し、運動や水分を摂取を促すなど対応を行っている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事業所は、入浴時間を一定の時間で区切っているが、その入浴時間にとらわれることなく、利用者が希望する時間や曜日にできるようにしている。	入浴は、毎日行っていて(10時~16時)利用者のその日の状態や、利用者の意思を尊重した入浴の支援をしている。利用者がゆっくりと、楽しい気持ちで入浴出来るように、一日3人ずつ、隔日ごとに実施している。また、入浴は利用者職員が、ゆっくり話せる時間として捉え、人間関係を築く貴重な時間でもある。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々は、事業所内で自由に過ごされている。各自の部屋も自由に出入りができる為、それぞれが思い思いに時間を過ごしている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員は、利用者ひとりひとりの服薬について、その用法や使用量、目的を理解している。利用者個々の服薬前後の状態把握を行い、利用者毎に記録を行っている。利用者の状態変化時は、主治医への報告を行い、連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は、利用者ひとりひとりを理解し、その方の状態にあった気分転換が図れるように行っている。外出の好きな方には、玄関前で日向ぼっこや歌の好きな方には、懐かしの歌と一緒に歌うなど行っている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の気候にもよるが、利用者個々が希望すれば、戸外で過ごす時間や近くの買い物などに出かけている。病院受診の帰りに、市内をドライブしたりなど利用者個々の気分転換を図っている。地域の方々の協力を得ての外出は、まだ行っていない。	気候の良い時期は、ホーム周辺の散歩が日課で、毎月、外出レクを取り入れ、利用者の希望を聞きながら、甘木のビール工場や武蔵寺、公園等に出掛け、利用者の気分転換を図っている。また、買い物や、病院受診の帰りにドライブしたり、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々では、金銭管理は行っていないが、利用者が職員と一緒に日用品等の買い物に出かけた際に使用するなど、利用者個々の状態に合わせた支援を行っている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者個々が手紙のやり取りを行うことはなく、電話対応が主になっている。利用者個々で違いがあるが、携帯電話でご家族等と連絡を行う方や、職員が最初だけ家族と話、その後、ご本人と話をするなどし、ご家族等と連絡を行う場面がみられている。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は、建物の内外を毎日清掃し、清潔の維持に努めている。建物は、民家を改修して、庭先には季節の花が彩りを鮮やかにしている。共同生活の為、生活音が響くことがあるが、利用者個々には、その生活音や建物の古さが、一人での生活ではない様に受け止められている。	民家改造型の、定員6人の小規模なグループホームは、アットホームで、温かく、家族のような関係で、利用者が孤独になることもなく、料理の美味しい匂いに誘われて、利用者がリビングルームに集まり、楽しい食事が始まっている。また、室内は、照明や温度、湿度、臭いに配慮し、居心地の良い共用空間になっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを設置して、利用者個々がそれぞれにテレビを見たり、うたた寝をしたりしている。各自の居室もあるが、それぞれが思い思いに居間で過ごして談話したり、話飽きたら居室で過ごししたりし、ゆっくりと時間が流れている。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始前に、本人やご家族等に施設見学を必ず行って頂き、利用する居室を確認して頂いている。居室の空間は限られているが、できるだけご本人の思い出の物をひとつでも持参して頂いている。	利用者の馴染みの使い慣れた、筆筒や机、椅子、鏡、家族の写真、仏壇等を持ち込んで、自宅と違和感のない雰囲気にして、利用者が安心して穏やかに、暮らせるように支援し、清潔で居心地の良い居室になっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は、木造住宅を改造して利用している為、利用者個々が、使いやすいように安全に配慮したものととなっていると思われる。利用者個々に、職員が説明が行い、安全に使用できるように行っている。		